

2007年度 子ども教育研究所事業報告

講演会・シンポジウム・自治体との連携プロジェクト報告

- (1) 「国際幼児教育フォーラム」
- (2) 「初夏のプログラム」(児童教育学科 Home coming day)
- (3) 「基礎体力パワーアップ大作戦」
(豊岡市教育委員会と本学との連携プロジェクト)
- (4) 「第6回 CREATIVE 保育講座」(子どもの絵の見方について)
- (5) 「秋のプログラム」(保護者の対応についてⅡ)
- (6) 「子育て支援センター開設記念式典および講演会」

山 本 裕 之

YAMAMOTO Hiroyuki

子ども教育研究所は2004年4月1日に教育研究センターのひとつの研究所として開設した。発達教育学部児童教育学科に併設され、所長は児童教育学科学科長が兼務している。研究所には幼児教育部門と初等教育部門があり、学科専任教員からの研究員と学外からの客員研究員で構成されている。

2007年度の主な事業として、上記表題の6項目の事業を行った。ここに、その概要を報告する。

(1) 「国際幼児教育フォーラム」

昨年度の大学創立40周年記念「小学校 国際教育フォーラム」につづき、「世界の子育て事情」をテーマにフォーラムを開催した。昨今、子どもを取り巻く社会的な環境の変化に伴い、世界においても子育てにかかわるさまざまな問題に直面している。そこで、今回は、アメリカ・中国・韓国・日本の各国が直面している子育ての現状を報告し、その課題や解決の道筋を参加者とともに考える場として企画した。保育現場の最前線におられる保育所・園の先生方や、兵庫県・神戸市の保育行政に携わっておられる方々の参加も得ることができ、さらに講演会・シンポジウムが実り多いものとなった。

基調講演の内容は、議論の前提として「子どもの遊びと発達」と題し、子育て期の遊びの重要性を子どもの発達という視点と関連させながら講演いただいた。また、シンポジウムでは、「世界の子育て事情」という観点から各パネリストが自国の子育ての現況とその課題について発表して頂いた。その後、フロアーからの質疑も含めさまざまな角度から子育て

てについて討議を行った。文化の違いを超えて、共通の課題解決への議論の展開となり、大変有意義なフォーラムとなった。

日 時：2007年5月26日(土) 13:30~16:40

会 場：神戸親和女子大学三宮サテライトキャンパス (ミント神戸17F: JR 三宮駅前)

参加者：小学校教諭、神戸市教育委員会、本学学生、本学教員等約200名。

プログラム：

1. 開会挨拶

神戸親和女子大学長 山根 耕平

2. 基調講演

「子どもの遊びと発達」

講演者 Dr. Bernardo Spodek (B. スポディック氏)

(アメリカ・イリノイ大学大学名誉教授)

通 訳 中植 正剛 (本学講師)

3. シンポジウム

「世界の子育て事情」

シンポジスト

黄辛隠 氏 (中国・蘇州大学教授)

M. ムン 氏

(韓国・韓国保育教育研究所 Trend and Analysis 部門部長)

中橋 美穂 (本学准教授)

コーディネーター

横山 ひろみ (本学教授)

通 訳 中植 正剛 (本学講師)

4. 閉会挨拶

子ども教育研究所長 山本 裕之

以下に、当日の「基調講演」、ならびに「シンポジウム」の詳細を、中橋美穂准教授執筆の「教育のひろば」より掲載する。

国際幼児教育フォーラム

中 橋 美 穂

基調講演として、イリノイ大学名誉教授であり、現在、環太平洋乳幼児教育学会会長のB. スポディック博士に「子どもの遊びと発達」をテーマに講演いただいた。幼児教育プログラムの普及の歴史と現代の状況、そして子どもの生活の中心となる遊び活動と保育者の役割について、さらには幼児教育研究の過去50年間の歩みと照らし合わせながら、これからの実践的研究の在り方について述べられた。

シンポジウムでは、中国から蘇州大学教育学院教授の黄辛隠氏、韓国から国立保育教育研究所トレンド・アナリシス部門部長のM. ムン氏、本学准教授の中橋が、各々の国の子育て環境の現状を報告した。なお、コーディネーターは本学教授の横山ひろみ、通訳は本学専任講師の中植正剛に務めていただいた。

各国の報告を簡単に述べると、黄氏からは、中国の大中都市部のほとんどの家庭は一人っ子であるという現実に対する問題が述べられた。優良な知力を持つが自己中心的で責任意識が弱いと言われている一人っ子の特徴や、その子を過保護に扱う親や祖父母の抱える問題、そして幼児教育や家庭教育における対策などが報告された。ムン氏からは、韓国において子育ては、もはや個別の責任だけではなく、保護者を支援することは国の施策において優先順位の高いものとなっていることが報告された。日本以上の出生率の低さや高齢化社会の問題、そして実際に働く母親へのサポート体制や保育者や保護者を対象とした幼児教育への支援を具体的なプロジェクトを紹介しながら報告された。中橋は、深刻な問題となっている子育てに対する不安をキーワードに、わが国の子育て支援施策の流れを整理し、子育てに取り組んでいる親の持つ不安の実情を報告しながら、今後の取り組みを考えていくというものであった。

その後のディスカッションでは、中国や韓国の現状をもとに、これからの課題解決について様々な側面から議論が展開された。

(2)「初夏のプログラム」(児童教育学科 Home coming day)

今春、本学児童教育学科を卒業し、保育・幼児教育関係の職場に就職した卒業生を対象に、「初夏のプログラム」と題し、卒業生との交流会を開催した。新社会人として慣れない職場での戸惑いや、周囲への気遣いが必要な中で、同じように幼稚園や保育所で働く同級生と事象を共有しながら職業人としての育ちを側面から援助することを目的に開催した。

卒業生31名が参加し、本学科の教職員と共に懇談し、同じ保育に携わる者たちが仕事に関する悩みや近況を報告し合い有意義な懇談会となった。

日 時：平成19年6月2日(土) 12:00~14:00

場 所：学生会館2階 学生食堂

内 容：1. 懇親会

2. 小グループ別懇談会

以下に、当日の内容の詳細を坂根美紀子教授執筆の「教育のひろば」より掲載する。

初夏・秋のプログラム

坂 根 美紀子

就職して2ヶ月の卒業生達からは、「クラスの子どもがかわいいし愛おしい」、「5月に先輩保育士と、実習生を受け持つこととなった。実習日誌の書き方など指導が大変で、もっと勉強をしておけばよかった」、「親からのクレームが多く、十分に対応できない。園長先生や主任先生に助けてもらい、何とか乗り切っている」、「先生方に会えてうれしかった、元気が出ました」、「みんなのがんばっている姿を見られてよかった、仕事しんどいけどがんばれる」など、仕事に関する悩みや近況報告がなされ、ときにはうなずき、ときには笑いありと話に花がさいた。

新社会人になり、同じように幼稚園や保育園で働く同級生と語らい、ゼミの先生方や懐かしい仲間達と楽しいひとときを過ごした。

(3)「基礎体力パワーアップ大作戦」

～豊岡市教育委員会と本学との連携プロジェクト～

平成18年度に、豊岡市教育委員会と本学との間で「基礎体力パワーアップ大作戦」実施にあたっての協定を結んでいる。今回はその一環として、特別支援プログラムを2回実施した。

以下に、その内容の詳細を間渕泰尚講師執筆の「教育のひろば」より掲載する。

基礎体力パワーアップ大作戦について

間 渕 泰 尚

2006年5月のプロジェクト会議から始まった「基礎体力パワーアップ大作戦」は8月に豊岡市教育委員会と神戸親和女子大学との間で正式に協定を交わし、以後着々とプログラムを実行してきた。これらの活動は大きく3つに分けられる。①体力測定データと連動した生活実態調査の実施、②小学生と担任教師が主対象の特別支援プログラム、③教師対象の体育実技研修会である。ここでは本年度の経過について報告したい。

まず2006年夏に高学年、秋に低学年を対象に実施した生活実態調査については、2007年5月のプロジェクト会議において報告を提出した。要点のみを列挙すると次の5点となる。①規則正しい生活は重要であるが、それ以上に大事なのは好き嫌いなく食事をするることである。②スポーツや遊びで体を動かすだけではなく、本を読んだり勉強をしたりするなどメリハリがあり、バランスの取れた生活が大事である。③子どもの成長に応じた外遊びを経験することは、体力向上にも役立つ。④運動が好きになり、もっと得意になりたいと思うことが重要である。そのためにはなるべく小さいうちから運動に親しむことが望ましい。⑤体力が向上することは、単に体力面が向上するだけでなく、成績や性格など生活全般の質を向上させる効果が期待できる。詳細については『教育研究センター紀要』第3号収録の2論文を参照いただきたい。

以上の結果に基づき、2007年12月には2回目の生活実態調査を実施した。今回は高学年と低学年を同時に実施している。結果については現在分析を進めているところである。

次に特別支援プログラムについては2007年4月4日と7月6日の2回実施した。対象は生活実態調査の対象校でもある3つの小学校で、但尾先生を中心にKSスポーツクラブなどで小学生への対応経験を積んだ学生が指導を行うとともに、ビデオを利用した教材作成にも取り組んでいる。

3つ目の体育実技研修会については、昨年度と同様夏休み中の8月27日に実施した。参加者は約60名で、本学とパートナーシップ協定を結んでいるヴィッ

セル神戸から加藤普及事業部副本部長ほか4名のスクールコーチ、本学からは但尾先生と7名の学生が参加して実施された。午前中は本学が、午後はヴィッセル神戸が中心となって様々なプログラムを実施した。参加者からの要望も受け入れ、充実した研修会となった。

上記のほか、6月には豊岡市役所にて記者会見を行い、生活実態調査の結果やそれを受けた実技指導などの取り組みについて発表を行った。記者会見の模様と8月の体育実技研修会については新聞の地方面でも取り上げられた。

本プロジェクトは今年度を持って一区切りとなるが、今回の諸活動を通じて得られた様々な人的つながりやデータは貴重な財産であり、発展的な形で今後活かして行きたいと考えている。

(4)「第6回 CREATIVE 保育講座」(子どもの絵の見方について)

現在、保育の実践現場において、子どもたちの発達に関する問題には、保育者、保護者ともに大きな関心が寄せられている。そこで、今回のCREATIVE 保育講座では「子どもの絵の見方について」と題し、子どもの描く絵のとらえ方について、本学教授大島剛氏による講演会を企画した。幼稚園や保育所(園)の現場の先生方を中心に、約100名の方々にご参加いただき、実際に子ども達が描いた絵を見ながら展開された大島教授の講義に、保育の現場と養成校が、共に子どもの豊かな成長を願い、考える良い機会となった。

日 時：2007年8月3日(金) 18:00～19:30

場 所：三宮サテライトキャンパス

(ミント神戸17階)

内 容：テーマ「子どもの絵の見方について」

(大島 剛 / 本学 教授)

参加者：約100名

以下に、当日の内容の詳細を、中橋美穂准教授執筆の「教育のひろば」より掲載する。

CREATIVE 保育講座

中 橋 美 穂

今、保育の実践現場において、子ども達の発達に関する問題に大きな関心が寄せられている。そこで、

子ども一人一人の個性を理解し、認め、その上でそれぞれの持っている可能性を引き出し、成長を支援していくことを目指すための一つの視点として、子どもの絵から子どもを理解することの試みをテーマとしてとりあげた。以前に、本学主催の「保育・冬のプログラム」において「発達の視点から子どもの絵を見る」ということを、福祉臨床学科の石岡由紀准教授に講演いただき考える機会を得ていた。その発展的な位置づけとして、今回は心理学的な視点から子どもの絵を見るというものであった。

子どもを理解することは保育の基本であり、保育者の役割としてもたいへん重要なものである。その子ども理解の視点として、保育実践においても臨床心理学的な視点が役に立つ場合が少なくない。保育実践においても、臨床心理学的な実践においても、人と人との「かかわり」を重視した営みであり、相手（子どもやクライアントなど）の心をどのようにとらえるのか、どのように理解し対応するのかということが大切となるからである。

当日は、暑い夏の日であったにもかかわらず、幼稚園や保育所（園）の現場の先生方を中心に約100名の方々にご参加いただいた。大島教授からも、実際に子どもが描いた絵を数多く提示いただきながら、登場人物や画面の構成、色遣いなどに子どもの年齢や発達の状態を対応させながら、「この絵を描きながら、そのときのことを思い出して、子どもはとても楽しい気持ちになっている」など、具体的に講義を展開していただいた。

(5)「秋のプログラム」（保護者の対応についてⅡ）

～親との心のふれあいを求めて～

昨今、保育現場における保護者対応の難しさが叫ばれている。前回の研修会（2006年「冬のプログラム」《保護者の対応について》）では、保育現場に携わっている方々を対象に、現場での保護者対応についての事例をあげ、グループ討議を行った後、各グループの代表者が討議内容を発表し、それぞれの課題をお互いに共有し、その解決方法を探る良い機会となった。

そこで、今回は秋のプログラムとして、講師に本学教授：山添 正氏を迎え、講演会を企画した。当日は、保育現場の先生方を中心に多くの方々にご参加いただき、保護者の対応についての関心が高まっている中、前回に続き有意義な研修の場となった。

日 時：2007年11月2日（金）18：30～20：00

場 所：三宮サテライトキャンパス

（ミント神戸17階）

内 容：開会挨拶

（山本 裕之／子ども教育研究所長）

講演テーマ「保護者の対応の仕方を探るⅡ」

講師（山添 正／本学 教授）

閉会挨拶（山根 耕平／本学 学長）

参加者：公私立保育士・幼稚園教諭約100名

(6)「子育て支援センター開設記念式典および講演会」

この度、本学では地域の未就園児とその保護者を対象とした「子育て支援センター（すくすく）」を開設した。その開設に伴い記念式典と講演会を企画し、下記のとおり実施した。

講師には、幼稚園や保育所・園で子どもたちが大好きなうたを数多く創作、発表されておられるシンガーソングライターの新沢としひこ氏をお招きした。

当日の講演会では、身体を動かしながら歌ったり、楽しいお話や素敵うたを数多く聴かせていただくことができた。新沢氏の情熱溢れる歌声に、会場内の地域の子育て支援に取り組んでおられる方々と、本学学生が一体となって大いに盛り上がる講演会となった。

日 時：2008年2月16日（土）13：30～16：00

場 所：本学 学生会館 記念講堂

内 容：開会挨拶（山根耕平／本学学長）

講 師（新沢としひこ氏）

開会挨拶（山本 裕之／子ども教育研究所長）